

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成29年度技術情報第8号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、今後の防除指導の参考にしてください。

平成29年度技術情報第8号

- 1 対象害虫 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
- 2 対象作物 果樹全般
- 3 発生地域 県本土
- 4 発生量 並～多

5 情報の内容

予察灯における果樹カメムシ類の誘殺虫数が、過去の多発年（注意報発表年）と同様に多い。果樹カメムシ類の餌になるヒノキ球果等の劣化（口針鞘数の増加）が認められた地点があり、果樹園での加害も見られ始めている。このことから、果樹カメムシ類が新たな餌を求めヒノキ等からの離脱を開始しているものと考えられる。現在、発生が見られない園でも今後の飛来に注意が必要である。

6 情報の根拠

- （1）予察灯の誘殺虫数は、出水市で過去の多発年（注意報発表年H26, H24）と同等に推移している（図1）。また、他の地域でも8月以降に増加している（図2）。
- （2）ヒノキの調査では、特に出水市美原町で寄生虫数が多く、口針鞘数も他県でヒノキからの離脱の目安とされている25本/果を超えている。他の地域でも、9月前期にかけて寄生虫数と口針鞘数が急激に増加している（図3）。
- （3）出水地域の一部では、ミカン園で加害が認められている。
- （4）過去の多発年と本年を比較すると、ヒノキでの寄生虫数（成虫）はツヤアオカメムシがやや多く、チャバネアオカメムシは同程度に推移している（図4）。
- （5）本年は餌となるスギ・ヒノキの着果量が多い傾向だが、地域間差が見られる（データ略）。
- （6）台風等で餌植物の球果等が落果すると、果樹園へ飛来する場合がありますので注意する。

7 防除上注意すべき事項

- （1）果樹カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるため、こまめに園内外をよく見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。特に、収穫期が近い樹種では注意する。
- （2）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ミカンハダニの発生を助長するので、散布後の発生に注意する。
- （3）防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を厳守する。

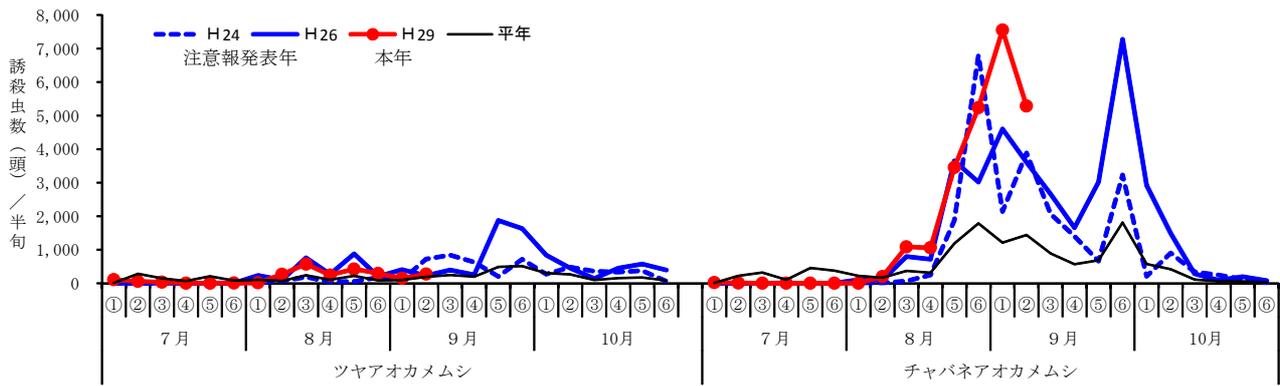
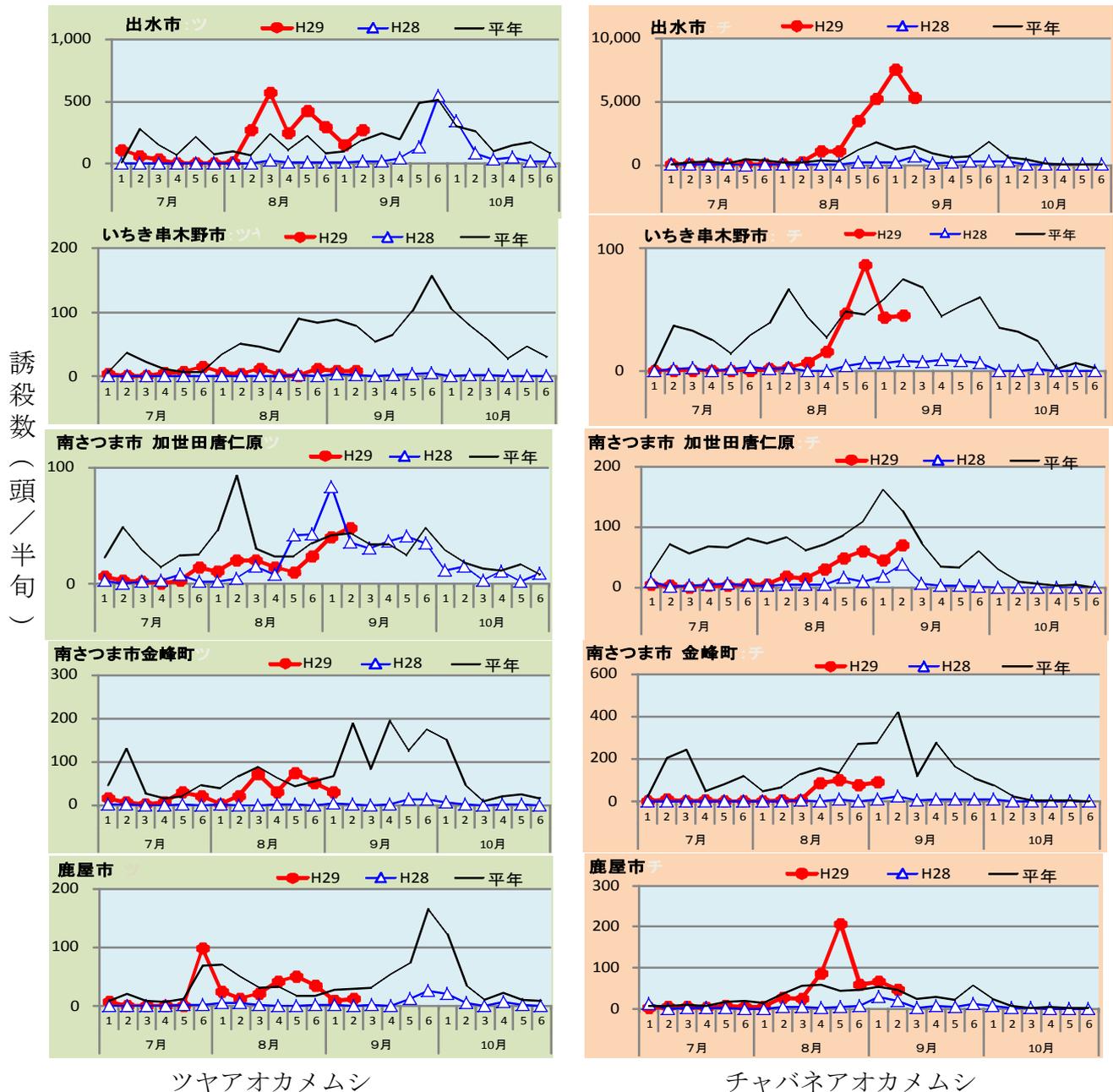


図1 予察灯（出水市美原町）での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

注) 平年は過去6年間



ツヤアオカメムシ

チャバネアオカメムシ

図2 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

注) 平年：南さつま市金峰町、鹿屋市：過去10年間の平均値，他は過去6年間。

捕虫方法：南さつま市金峰町100w水銀灯，鹿屋市 補虫用蛍光灯と白色蛍光灯（20W）を併設，他は40W捕虫灯

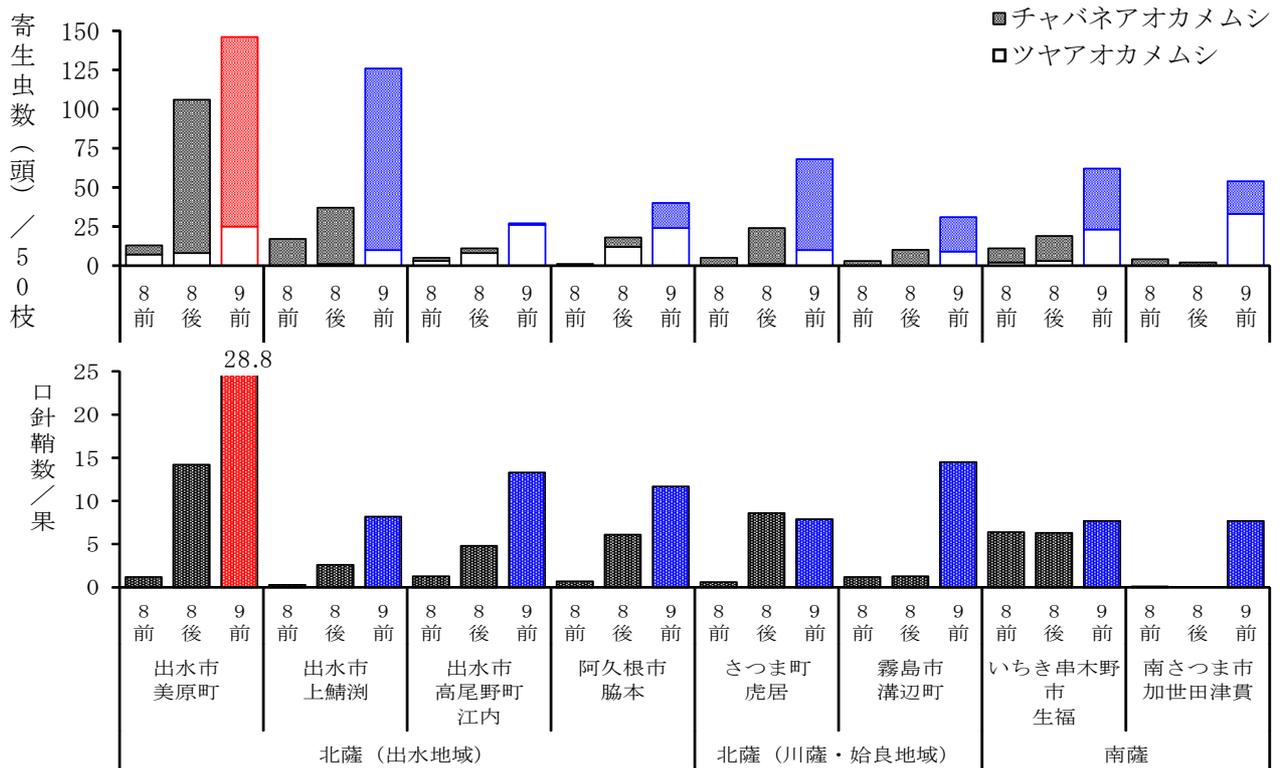


図3 ヒノキの果樹カメムシ類の寄生虫数 (上図) とヒノキ球果の加害痕数 (口針鞘数) (下図)
 注) 調査は、8月前期 (8月2~8日), 8月後期 (8月17~24日), 9月前期 (9月4~6日)。寄生虫数は、2種の成虫・幼虫の合計。
 ヒノキ球果の加害 (吸汁) が進むと加害痕 (口針鞘) が増加し、餌として不適になる。
 出水市の予察灯は、出水市美原町の調査地点に近く、次に出水市上鯖洲と近い。

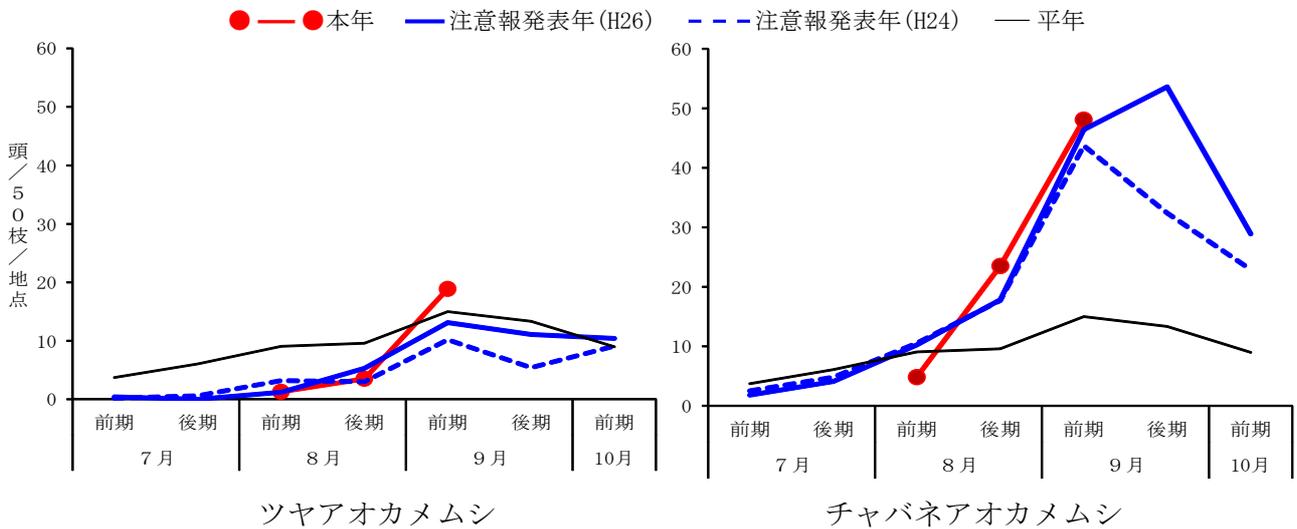


図4 多発年と本年の果樹カメムシ類の餌植物 (ヒノキ) での寄生虫数 (成虫)

注) 平年は、過去10年間 (H19~H28) の平均値 (うち注意報発表年4回)。データは各調査地点の平均値